

AI・DX時代の到来により、科学技術の変化に適応し新たな価値を創造する人材の育成が急務となっています。日本科学教育学会・創立50周年記念事業では、これからの半世紀を見据えた「科学技術人材育成」のあり方を探る連続オンラインシンポジウムを展開しています。

# 一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を 実現する科学技術人材育成

第3回 日本科学教育学会創立50周年記念連続オンラインシンポジウム

50<sup>th</sup>

日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education

シンポジウム日時：8月29日(土) 13時～15時15分

1. 奥本 素子 (北海道大学 CoSTEP)  
「拡張するサイエンスコミュニケーション」
2. 渡辺 美智子 (立正大学データサイエンス学部)  
「今求められる文理融合型データサイエンス・AI教育」
3. 影山 和也 (広島大学大学院人間社会科学研究科)  
「誰と共にある科学技術人材育成か  
ーインクルーシブ理数教育と教員養成からー」
4. 田邊 和彦 (立教大学社会学部)  
「ジェンダーの観点から考える科学技術人材育成」

開催形式：オンライン(Zoom)

対 象：どなたでも(非学会員でもご参加可能)

定 員：250名(参加費無料・先着順)

主 催：一般社団法人日本科学教育学会

申し込みはこちら▶

<https://forms.gle/3Qip7YtBcWkcezT29>

高等教育や博士人材に焦点を当てた第1回、ICT活用や地域連携によるSTEM教育を議論した第2回に続き、第3回では「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する科学技術人材育成」をテーマに掲げます。今回は、サステナビリティ、インクルーシブ、博物館、文系層への科学教育といった新たな切り口から、「科学技術人材の枠組みの拡張と養成のあり方」について深く議論したいと考えています。



## 奥本 素子 (北海道大学 CoSTEP)

### 「拡張するサイエンスコミュニケーション」



**講演趣旨:** サイエンスコミュニケーションは科学と社会の間をつなぐ活動です。その役割は従来の相互理解の促進だけでなく、倫理的社会的背景への配慮、対立する利害の調整、科学をめぐる民主的対話の創出など多様な役割が求められています。2025年にCoSTEPは、140名のサイエンスコミュニケーターと共に拡張するサイエンスコミュニケーションの役割をCoSTEP宣言として整理しました。本講演ではその概要を紹介します。

**講師略歴:** 北海道大学教育イノベーション機構 科学技術コミュニケーションユニット ユニット長。博士(学術)。アートや博物館、日常などに科学を埋め込むことにより、科学を自分事化していく過程を研究している。またサイエンスコミュニケーション教育の評価、キャリア研究にも取り組んでいる。

## 渡辺 美智子 (立正大学データサイエンス学部)

### 「今求められる文理融合型データサイエンス・AI教育」



**講演趣旨:** 近年、生成AIやデータ駆動型社会の進展により、AI・データリテラシーは専門人材だけでなく、すべての市民に求められる基盤的資質となっている。それに伴い、科学技術人材育成の概念も、従来の理工系専門人材の育成から、データやAIを活用して社会課題の解決に取り組む文理融合型人材の育成へと拡張が求められている。本講演では、その教育の方向性と課題について考える。

**講師略歴:** 立正大学データサイエンス学部教授、理学博士。放送大学TV「身近な統計」、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの主任講師を務める。日本統計学会賞、文部科学大臣表彰科学技術賞受賞。現在、日本学術会議連携会員、International Association for Statistical Education副会長、大学・高専機能強化支援事業委員会委員

## 影山 和也 (広島大学大学院人間社会科学研究科・数学教育学プログラム)

### 「誰と共にある科学技術人材育成か

#### ーインクルーシブ理数教育と教員養成からー」



**講演趣旨:** 理数教育において「すべての人のための教育」を構想することは、学習機会の保障にとどまらず、人々それぞれの特別さを尊重しながら、誰が学びに参加し、何が学びとして認められるのかを問い直すことでもあります。科学技術とその当事者である人々との倫理的関係が改めて問われる今日、本講演では、インクルーシブ理数教育を鍵として、教員養成の側から科学技術人材育成のあり方を再考します

**講師略歴:** 広島大学大学院人間社会科学研究科准教授、博士(教育学)。広島県公立中学校数学科教諭を経て、2006年愛知教育大学教育学部講師など歴任、2011年より現職。図形学習、空間的推論、身体化デザイン、インクルーシブ理数教育を主な研究テーマとする。2025年より広島大学未来創造人材教育機構マネジメント室長

## 田邊 和彦 (立教大学社会学部)

### 「ジェンダーの観点から考える科学技術人材育成」



**講演趣旨:** 科学技術分野で学ぶ学生の女性比率は徐々に上昇してきていますが、諸外国と比べると、日本ではいまだ女性比率が非常に低い状況にあります。本講演では、男性よりも女性の方が理系進路を選択しにくい現状やその背景について整理し、性別にかかわらず優れた科学技術人材を育成していくために求められる将来の方向性について考えます。

**講師略歴:** 立教大学社会学部特任PD。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、博士(人間科学)。専門は教育社会学。主な論文として、「日本における性別専攻分離の形成メカニズムに関する実証的研究—STEM/ケアの次元に着目して—」『教育社会学研究』(2022)、「『理系』と認識されやすいのはどのような子どもか—母親の抱く文化的信念に焦点を当てて—」『科学教育研究』(2023) (日本科学教育学会奨励賞受賞) など。